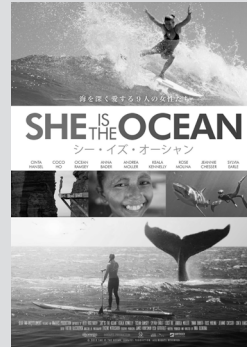


『SHE IS THE OCEAN』

監督・脚本：インナ・プロヒナ

出演：チンタ・ハンセル／ココ・ホー／オーシャン・ラムジー／アンナ・バーダー／アンドレア・モラー／ケアラ・ケネリー／ローズ・モリーナ／ジニー・チェッサー／シルビア・アール

2019年／アメリカ／98分



公式サイト

DVD 発売中

発売元・販売元：レイドバック・コーポレーション
©2019 SHE IS THE OCEAN, INWAVES PRODUCTION. ALL RIGHTS RESERVED.

社会を旅する シネマ

きっともっと 近くなる
きっともっと 知りたくなる

夏らしいもののひとつ、海。「母なる海」という表現があったり、海水と羊水は同じ成分だと言われていたり、女性と結びつけられることが少ない。一方で、本号のテーマであるスポーツをはじめ「海で何かをする」世界では、身体的強さや勇敢さなどが求められ、そこから女性は遠ざけられてきたことに本作は気づかせる。

女性と海のつながりが語られるインドネシアの伝説に触発された女性監督が製作した本作。海をこよなく愛する、年齢、職業、国籍などが多様な9人の女性たちのインタビューから織りなされている。

そのひとり、ケアラはビッグウェーブや筒状の波も乗りこなし、各種大会で優勝も収めたプロサーファーだ。しかし、これまで「女にはムリだ」と何度も言われ、女性というだけで蹴落とされてきたという。「ビッグウェーブに乗れば尊敬される。私も男性と同じように認められたい」とサーフィンを極めるが、今度はプロとして生計を立てるため契約をしたスポンサーから女性らしさを求められ、葛藤を抱くことに。お金より正直であることを大事にする決意したケアラは、自信に満ちた表情で「自分らしくいると敬意を払われる」と伝える。

ケアラだけではない。クリフダイビング(崖などから海や湖に飛び込む競技)を行うアンナは、初めて大会に参加したとき、男性選手しかいなかったため、メディアへのPRでしか飛ぶことができなかつ

強く厳しくやさしい海と生きる 女性たちのストーリー

アーヤ藍

たという。「本心では(自分も)競争したかった」と語る彼女は、その後、ヨーロッパチャンピオンに8回輝いている。理不尽なジェンダーの壁を、ときに力強く壊し、ときに軽やかに飛び越えてきた彼女たちの姿と言葉に胸が熱くなり、背中を押される。

もうひとつ、本作の軸となっているのが、人間にとっての海という存在だ。登場する女性の中には、海で命にかかわる大怪我をした人もいれば、子どもを海で失った人もいる。怖さや悲しみをもたらす存在でもある海に、彼女たちは再び向かう。癒しや安らぎを与えてくれ、生きることに意味に気づかせてくれるのもまた、海だからだ。海のない人生は考えられない、そんな思いが9人からあふれる。

幼い頃一目惚れしたサメの保護活動続けるオーシャン・ラムジーや、海洋生物学者・探検家のパイオニアとして著名なシルビア・アールも登場し、私たち人間が海、そして地球とどう生きていくべきかも教えてくれる。

……と文字で読むと堅苦しさを感じるかもしれないが、何よりこの映画の魅力は海の美しさだ。監督自身、海を愛するひとりだからこそ、彼女が映し出す海はパワフルで、荘厳で、優しく、そのすべての顔に魅了される。海に包まれる感覚を味わっているうちに観る側の心は自然と開く。あとは身をゆだねるだけ。そうしたらきっと、あなたの心にもたくさんのメッセージが染み込むはずだ。



あーやあい：映画探検家。1990年生。慶應義塾大学卒。在学中に訪れたシリアが帰国直後に内戦状態になったことをきっかけに、社会問題をテーマにした映画の配給宣伝を行うユニテッドピープル(株)に入社。同社取締役副社長も務める。2018年独立、映画イベントの企画運営や記事執筆等を行う。

